

Vol.104

Vol.104 (2025年 秋号)

PMI 日本支部 ニュースレター

Best Practice and Competence / PM事例・知識 … 3

Stakeholders / 法人スポンサー紹介 …… 10

Activities / 支部活動 …… 16

PM Calendar / PMカレンダー …… 24

Fact Database / データベース …… 25



Project
Management
Institute.
Japan

Best Practice and Competence / PM 事例・知識

- ◆委員会・部会活動内容紹介 3
 - ・アジャイル研究会 PMI日本支部 アジャイル研究会 代表 大内 孝明
 - ・リスク・マネジメント研究会 PMI日本支部 リスク・マネジメント研究会 代表 清野 悠
 - ・はじめてのプロジェクトマネジメント研究会 PMI日本支部 はじめてのPM研究会 代表 知久 忠晃

Stakeholders / 法人スポンサー紹介

- ・DXCテクノロジージャパン株式会社 10
- ・株式会社 SCC 13

Activities / 支部活動

- ◆PMI日本フォーラム2025 結果報告 16
- ◆リーダーシップミーティング2025 実施報告 21

PM Calendar / PMカレンダー 24

- ・PMI日本支部関連セミナー等

Fact Database / データベース 25

PMI日本支部ニュースレター Vol.104 2025年9月発行

編集・発行：PMI日本支部 事務局

〒103-0008 東京都中央区日本橋中洲3-15 センタービル3階

E-mail：info@pmi-japan.org

ホームページ：https://www.pmi-japan.org/

◆商標等について

「PMI Project Management Institute」とそのロゴおよび「PMP」、「CAPM」、「PMBOK」、「OPM3」、「Quarter Globe Design」は、米国および他の国で登録されているプロジェクトマネジメント協会のマークであり商標です。プロジェクトマネジメント協会のマークの対象リストについては、プロジェクトマネジメント協会の法務部門へお問い合わせください。

「ITIL® (IT Infrastructure Library)」は、英国及び欧州連合各国における英国政府 Cabinet Office の商標又は登録商標です。

Best Practice and Competence/ PM 事例・知識

委員会・部会活動内容紹介

■ アジャイル研究会

PMI 日本支部 アジャイル研究会 代表 大内 孝明

アジャイル研究会は、PMI 日本支部の下部組織として活動しており、約 50 名の多様なメンバーが在籍しています。研究会のミッションは、「アジャイルの発展と情報発信を推進し、活発な活動の場を提供すること」です。

アジャイル研究会はソフトウェア開発のみならず、組織やビジネス変革など幅広い分野に目を向け、アジャイルという考え方をあらゆる立場・業界の参加者とともに探求しています。活動は、参加メンバー自身が「やりたいこと」「興味あること」を持ち寄り、主体的に進めていくスタイルです。

研究会そのものが「アジャイル」な運営を重視し、以下の特徴的な方針・体制で活動しています。

- **プロダクトオーナー制：**

「この活動をやりたい！」という会員が手を挙げることで、ワーキンググループ（WG）が結成されます。

- **自己組織化：**

メンバー一人ひとりが主体性をもって参加し、価値を感じられる活動を目指しています。

- **オープンなチーム運営：**

新しい活動やプロジェクトには途中参加も歓迎。興味があればいつでもメンバーになることができます。

- **積極的な対外交流：**

PMI 内外のイベントや、大学・他団体との共同研究なども積極的に行います。

主な活動は次の通りです。

1. 月次定例会

毎月第3木曜日 19:00～21:00（2時間・オンライン）

会員が Zoom 会議に集まり、事務連絡・各 WG の進捗・イベント情報の共有を行います。

PMI 日本フォーラムやアジャイルジャパン等、外部イベン

トへの発表準備やレビュー、参加報告の共有も実施します。講演動画の視聴や意見交換も実施し、理解を深めます。

2. 「とにかくアジャイルについて語り合おう」ワーキンググループ（WG）

毎月第3土曜日 21:00～22:00（1時間・オンライン）

オンラインホワイトボード（mural）を用い、気軽に「アジャイルに関する疑問・悩み・課題」などを持ち寄る井戸端会議形式の勉強会です。

コーチや実務経験者、書籍執筆者からのアドバイス、皆で調べながらの議論も行っています。

毎回テーマは自由で、疑問点や話題となっている用語などを参加者が付箋に書き出し、それについて知見を持つメンバーからリアルタイムで情報提供やアドバイスが行われます。知識を持ち寄りつつ、初心者からベテランまで幅広く学べる、敷居の低い交流の場となっています。

3. アジャイル関連部会との合同イベント

年に1回ほど、他のアジャイル関連部会と合同で「アジャイルジャパンサテライト」といった形のイベントも開催しています。アジャイルジャパンの録画を視聴し、多様な立場や背景の参加者が交流し合い、最新動向や現場での工夫などを共有します。

4. 意識調査・アンケート活動

毎年、アジャイル実践状況についてのアンケート調査「アジャイルPM意識調査」を実施しています。集計・分析結果は、定例会やPMI 日本フォーラムなどで発表され、国内におけるアジャイル導入の実態や課題、傾向を明らかにしています。この活動には参加者全員が意見出し・議論に加わるため、統計的知見や業界動向の学びにもつながります。

Best Practice and Competence/PM事例・知識

■委員会・部会活動内容紹介

5. 大学や外部有識者との共同研究

大学の先生方や外部有識者との共同研究も企画・実施しています。ここでも「プロダクトオーナー制」の方式を取り、やりたいメンバーが中心になって推進しています。研究成果は定例会やPMI日本フォーラムなどで共有され、学びにつながります。

6. アジャイル関連イベントへの参加・情報共有

アジャイルジャパン、RSGT（リージョナルスクラムギャザリング東京）などの主要国内イベントへの参加を積極的に推進しています。研究会予算により会員が参加し、その感想や知見を定例会で報告・共有します。これにより、生の現場感覚や最新の技術・知識を広く会員間に展開しています。

7. 情報発信

ホームページや各種SNS等を通じて、研究会内外へ情報発信も行っています。イベント告知、活動報告、知見のシェアなどを継続的に強化していく予定です。

アジャイル研究会は「学び合い」、「自発性」、「つながり・多様性」を大切にしています。定例会やWGは和気あいあいとした雰囲気、参加者同士の自由闊達な意見交換が特徴です。特に「とにかくアジャイルについて語り合おう」WGは、初学者の方でも肩肘張らずに参加できるのが魅力といえるでしょう。

また、自分の興味ある分野に自然体で活動できる点や、多様な経験・専門性を持つメンバーが集まるダイナミックさは、他にはない大きな価値です。例えば「用語の意味がよく分からない」、「いま現場で困っている」といった率直な悩みでも気軽に投げかけることができ、それに対して多様な知見や経験に裏打ちされた意見が返ってきます。実際のディスカッションでは、疑問点をその場でインターネットや書籍等で調べ合いながら知識を深めたり、業務に直結するノウハウも惜しみなく共有されたりします。

また、多くのメンバーが自身の現場・組織でアジャイルを実践する「当事者」であり、講師やコーチ、書籍執筆や国際標準化活動にも関与しています。そのため、アジャイルの原

則やプラクティスだけでなく、組織変革やビジネス変革など幅広い視点からの意見や経験談を学べるのもこの研究会ならではの特徴です。

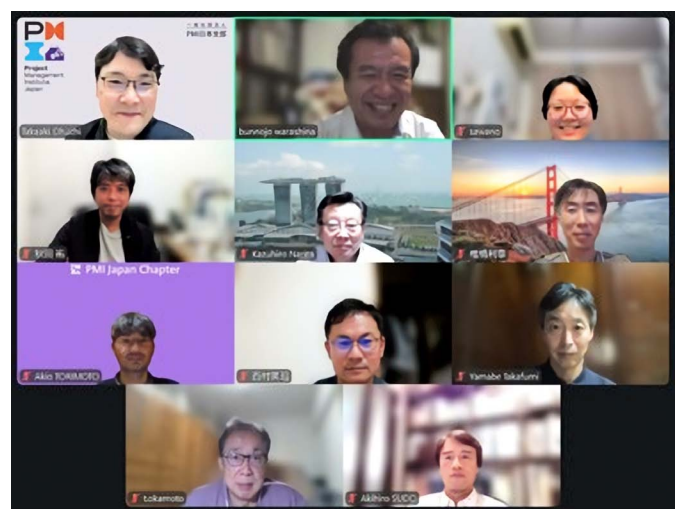
アジャイル研究会では、Slackなどのオンラインツールを活用したコミュニケーションを行っており、新しいメンバーもすぐに活動へ溶け込むことができます。プロダクトオーナー制やWGの立ち上げも常に開かれており、気になる活動にはいつでも途中参加可能です。

定例会やWGには各自の都合で参加でき、無理なく自分のペースで関わっていただけます。アジャイルな考え方や実践を身につけたい方、最新情報や実体験を共有したい方、同じ志を持つ仲間とネットワークを広げたい方には、まさに最適な環境です。

アジャイル研究会は、あらゆるバックグラウンドの方々が学び・交流し・自己成長できるコミュニティとなっています。

アジャイルについて知識を深めたい、実践例や生のノウハウが知りたい、他流試合で切磋琢磨したい——そんなモチベーションが少しでもあれば、まずは一度お気軽に見学・体験参加をおすすめします。きっと新しい視点と仲間、挑戦のチャンスが見つかるはずです。

皆さまのご参加を心よりお待ちしております。



■ リスク・マネジメント研究会

PMI日本支部 リスク・マネジメント研究会 代表 清野 悠

リスク・マネジメント研究会では、以下のようなビジョンを掲げ、活動しています。

「どのような社会風習になろうとも、研究会の成熟度を向上させ、リスク・マネジメントに関わる議論の場と事例、情報の供給源となる。」

そのためにグローバルを舞台に活動することと、以下のようなことを意識して活動しております。

- ・メンバー同士切磋琢磨して自己向上の研究会
 - ・誇りを持てる研究活動
 - ・PPPにおけるリスク・マネジメントの技術集団
- メンバーは、2025/9初現在で23名おり、年齢層はやや高め40代以上中心です。業界は、IT、製造業の方々が多いですが、建設業、大学教員の方もいらっしゃいます。

研究会の主な活動内容は、図1の通りです。

図1 主な活動内容

カテゴリー	活動名
月例会	
ワーキンググループ	AIにおけるリスク研究
	RM基礎研究 標準文書調査 リスク要因
プログラム/プロジェクト	RMセミナー企画・実施 監訳活動
勉強会	PMI RMP勉強会

「月例会」は、毎月第1金曜日に1時間、Zoomで開催しています。各活動の共有を中心に行っていますが、今年から議題を決めてディカッションする時間を設けるようにしました。昨今では、「ご自身のご経験とリスク・マネジメントについて思うこと」「生成AI導入に伴うリスクとその管理手法について」などを議題として議論し、情報交換を行っております。

「セミナーの企画・実施」として、今年も「転ばぬ先の杖、現場で使うためのリスク・マネジメント ～事例で学ぶ体験型セミナー～」を7/5(土)に開催しました。コロナが明けて2回目の対面開催となりましたが、21名の受講生（PMP未

取得者2名含む）が参加し大盛況でした。セミナー後のアンケートでは、満足された方が95%を超え、よいセミナーであったといえるかと思います。

研究会では、本セミナーの企画からテキストの改訂、講師の担当、当日の実施などを事務局の方々に協力いただきながら主体的に行い、リスク・マネジメントを広める活動に貢献しております。

図2 セミナーの目的



- 本セミナーは、「リスク・マネジメント・プロセス」の実践的な利用を学ぶ場です。
- 実際にリスク・マネジメント・プロセスに従い演習を行うことで、以下の修得を目的としています。
 - リスク・マネジメント・プロセスを理解できる。
 - リスクを分析し、効果的にリスク対応計画を立てることができる。
 - 実践力を身につけることができる。
 - 技術交流を通して視野を広げることができる。

図3 セミナーの内容



1. リスク・マネジメント・プロセスの概要
2. リスク・マネジメントの計画
3. リスクの特定
演習（1）
4. リスクの定性的分析
演習（2）
5. リスク対応の計画
演習（3）
6. リスク対応策の実行
7. リスクの監視
8. まとめ
9. リスク・マネジメント研究会の紹介
10. 振り返り
11. 受講者感想

「監訳活動」として、現在、2024年に英語版で発刊された新実務ガイド「Risk Management in Portfolios, Programs,

Best Practice and Competence/PM事例・知識

■委員会・部会活動内容紹介

and Projects: A Practice Guide」の日本語版を発刊すべく、事務局、標準化委員会の方々と協力しながら、研究会メンバーを中心に監訳活動を実施しております。出来るだけ早く皆様のお手元に日本語版をお届けすべく、鋭意対応しております。

図4 PMIの標準書籍類の種類と、監訳活動

PMIの標準書籍類の種類

出典：ポートフォリオ、プログラム、プロジェクトにおけるリスク・マネジメント標準(新RM標準)の紹介/芳賀 和郎、<https://www.pmi.org/standards>

種類	The Standard 標準	Extension PMBOK拡張版	Practice Standard 実務標準	Practice Guide 実務ガイド	その他
書籍	• PMBOK®ガイド • プログラム • ポートフォリオ • BA • OPM • EVM • リスク (2019)	• ガバナメント • ソフトウェア • 建築	• コンフィグレーション • 見積もり • スケジューリング • WBS • リスク (2009)	• アジャイル • ガバナンス • 要求 • 組織 • BA • 複雑さ • 組織のチェンジ • BRM • リスク (2024)	• PMCDF

これらの日本語版を作成しています！

「PMI_RMP勉強会」として、試験の合格を目指し、試験問題を一緒に解く活動をしております。その中で、自らが選択した回答の理由を説明しあうことで、リスク・マネジメントについての知見・理解を深めております。また、試験問題は英文ですので、英語の長文の問題にも慣れるよう、研鑽しております。

図5 PMI_RMP勉強会の内容

■活動の目的

- ✓ PMI-RMP 試験の合格を目指したい
- ✓ 試験問題を解くことによってリスク・マネジメントについての知見を深めたい
- ✓ 英文に慣れたい

■方式

- ✓ 半月に1回程度のペースでSlackのハドル機能を利用して集まり、RMPのテスト問題を解く
- ✓ 勉強会は1時間程度。問題数10問程度
- ✓ 問題は英文。日本語訳をつける
- ✓ 参加者は出題に回答し、理由や考えを述べる・出題者は回答と解説を紹介する
- ✓ 受験対策などSlackにて情報共有

そのほか、ワーキンググループとしましては「AIにおけるリスク研究」や基礎研究として「リスク要因」に焦点を当てた活動もしております。また、個人で興味を持ったテーマに対して深堀していく「個人研究」も余裕がある方は取り組んでおられます。

それぞれの研究の成果については、秋に開催される「研究会内フォーラム」にて成果発表を行っております。

このような活動をしている研究会ですが、もし、ご興味を持っていただける方がいらっしゃいましたら、ぜひ、ご一緒にしませんか。

まずは、気軽な気持ちで見学しに来ていただければと思います。ご連絡、お待ちしております。



研究会内フォーラム後の懇親会にて

はじめてのプロジェクトマネジメント研究会

PMI日本支部 はじめてのPM研究会 代表 知久 忠晃

はじめてのプロジェクトマネジメント研究会、始動

部会概要

部会名	日本語名：はじめてのプロジェクトマネジメント研究会 (略：はじめてのPM研究会) 英語名：Step-up Project Management Study Group
ミッション	・プロジェクトマネジメントの普及を目指し、初心者が安心して学べる環境づくり ・若い世代や初心者の成長を支援し、他研究会への誘導やキャリア形成をサポート
今年度の目標	・プロジェクトマネジメントの普及活動 ・ゲームやイベントを通じたプロジェクトマネジメントの理解促進 ・プロジェクトマネジメントに関連するコンテンツの作成と提供 ・若い世代が興味を持つようなコンテンツ作成 ・ナレッジ共有 ・資格取得の支援や合格体験談の共有
エントリー数	71名

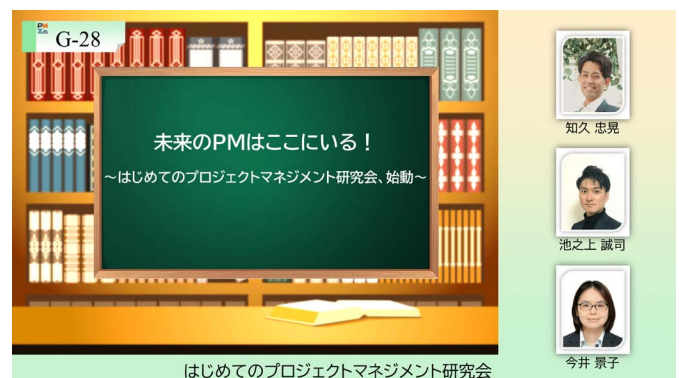
◆はじめてのプロジェクトマネジメント研究会概要

こちらは「はじめてのプロジェクトマネジメント研究会」の今年の活動概要をまとめたものになります。英語名は、当研究会の活動を通じて、参加者の皆様が少しずつスキルアップ、キャリアアップしていくことを意図したものとして、「ステップアップ」というキーワードを用いています。

2024年12月下旬にPMI日本支部ホームページのお知らせにメンバー募集について掲載し、およそ1か月間の募集期間ではありましたが、立ち上げメンバーを含め71名のエントリーがありました。

参加者の中には大学生や20代の方もおり、若手やプロジェクトマネジメント（以後、PMと略す）初心者でも参加しやすい活動とすることを目的としています。現在PMに従事している方に限らず、PMを学び、ステップアップしていただけるような研究会です。

PMI日本フォーラム2025でも「はじめてのプロジェクトマネジメント研究会」の部会紹介発表を行いました。今後も積極的な情報発信を予定しております。ご自身や周りの方を含めてPMを始めたばかりでお困りの方やご興味をお持ちの方は見学からでも可能ですので当研究会へのエントリーをお待ちしております。



◆活動内容

はじめてのプロジェクトマネジメント研究会では現在、「PM普及WG」、「コンテンツWG」、「ナレッジ共有WG」の3つのワーキンググループに分かれて活動しています。

プロジェクトマネジメントに対するイメージの改善やPMI活動の参入ハードルを下げるために活動していく「PM普及WG」、若手のプロジェクトマネージャーがスキルアップしていくためのコンテンツを開発していく「コンテンツWG」、そして最後に、ライフスタイルや世代に応じたプロジェクトマネジメントに関するコンテンツや体験を研究して蓄積していく「ナレッジ共有」です。

Best Practice and Competence/PM事例・知識

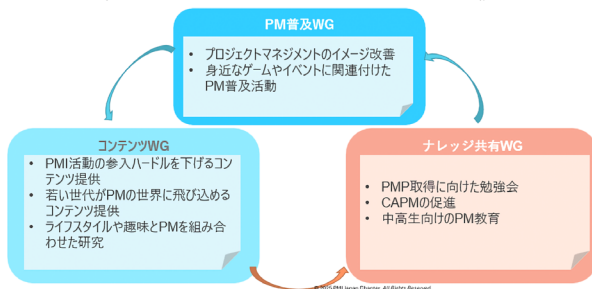
■委員会・部会活動内容紹介

現在は各WG合同の月1回の定例会に加え、それぞれのWGにて、参加可能なメンバーによる分科会形式で活動を続けています。

はじめてのプロジェクトマネジメント研究会、始動

活動内容

①PM普及活動 ②コンテンツ提供 ③ナレッジ共有 という大きく3つのWGを設け、お互いのWGの結果を月例定例会等でフィードバックし、サイクルを回して継続的にWG活動



◆活動スケジュール

はじめてのプロジェクトマネジメント研究会は2月末に初の活動となるキックオフを行い、以降は月に1度の頻度で定例会を開催しています。3月から5月くらいにかけて、各WGで取り組む活動内容について意見を出し合い、テーマを決めました。

6月から9月くらいにかけて、各WGで決めたテーマに基づき活動しています。そして、今年1年の活動について、10月から11月の期間に振り返りを行い、来年度に取り組む課題について抽出することで締めくくりたいと考えています。

今後の活動スケジュール

マスタースケジュール

活動内容	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月
活動計画		作成(計画)								作成(評価/次年度計画)		
定例会 (第4月19:30-21:00)		2/27 kickoff	3/24	4/21	5/26	6/23	7/28	8/25	9/29	10/27	11/17	12/22
PM普及WG			リモート開催									まとめ
コンテンツWG			リモート開催									まとめ
ナレッジ共有WG			リモート開催									まとめ
PMI日本フォーラム2025			リモート開催									
成果発表会 (部会リーダー交流会)				原稿作成	原稿完成		開催 7/12(土)、13(日)					12/13 報告

参照：「はじめてのPM研究」Kickoff資料

また、これら3つの各WGでの活動内容も少し具体的に紹介します。各WGでは以下のスケジュールで活動を行っています。7月のチェックポイントのタイミングでは定例会を

PMI日本支部の現地開催+オンラインのハイブリッドで開催し、リアルでの交流も大切にしています。普段は聞けない別業界のあるあるや、メンバーの趣味などの話もあるのでプロジェクトマネジメントに限らない発見もあります。

3月～6月	7月 (チェックポイント)	8月～10月	11月	12月
アイデア出し	各WGのテーマ・計画発表	各WGのテーマ実行①	今年度の各WGのまとめ・共有	次年度の各WGのまとめ・共有
各WGでテーマを決定(何をやるか等)	各WGのテーマ、方針・計画の発表	各WGでテーマを実行、及び次年度の計画検討	今年度実行した内容	次年度の計画(目標)

◆PM普及WG

PM普及WGでは、「PMってどんなことをするの?」「PMって難しそう…」といった参入障壁を少しでも取り払えるよう、ボードゲームなどの体験系ツールを活用し、広めていく活動などを行っています。企画したイベントに参加者が集まって体験することによりプレイヤー目線で理解を深めつつ、楽しみながら活動しています。

◆コンテンツWG

コンテンツWGでは標準委員会とも連携し、「マンガで学ぶプロジェクトマネジメント」を通したコンテンツの作成や、PMあるあるなどの洗い出し・分析やそれに基づき「この人だったらこうする!」など、様々な観点から他の人だったらどう解決するかなどのコンテンツ作成に向けた取り組みを行っています。文字だらけのPMBOKを少しでもコンテンツ化して吸収しやすいものとして展開していく予定です。

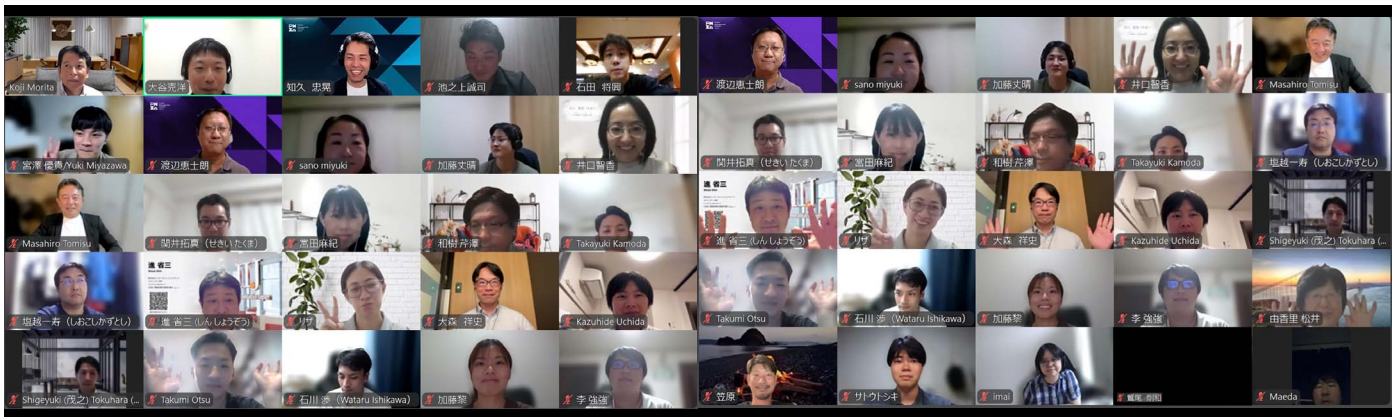
◆ナレッジ共有WG

ナレッジ共有WGでは、「難しいを簡単に」をテーマに活動に取り組んでいます。具体的には、これからPMP取得を目指す方を対象としたPMPの勉強方法や、既にPMPを取得している方も対象としたPMキーワード集の作成などを行っています。極力情報が簡潔に、かつ、1箇所に集約することで簡単に情報を得られるように研究会メンバーのノウハウをナレッジ化して展開していく予定です。

Best Practice and Competence/PM 事例・知識

■委員会・部会活動内容紹介

◆活動の様子



Stakeholders / 法人スポンサー紹介

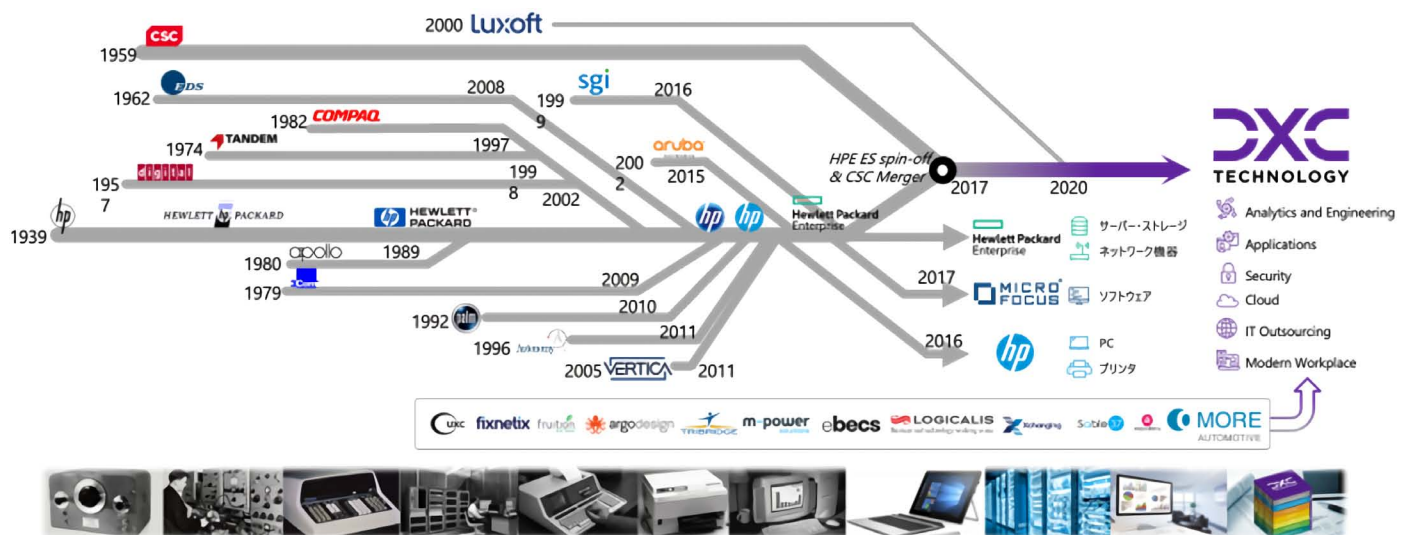
DXC テクノロジージャパン株式会社



DXC テクノロジージャパンは2017年4月3日Hewlett Packard EnterpriseのEnterprise Service部門とCSCは、グローバルレベルで合併し、新会社DXC Technology (NYSE: DXC) を設立しました。HP/DEC/COMPAQ/TANDEM/EDS/CSCのサービス部門が統合した、60年以上の歴史と実績を持って

いる企業で、日本でも50年以上にわたりITサービスを提供してきた実績を通じて、企業を支えてきた基幹システムとお客様のビジネスを熟知しています。

そこにグローバルなデリバリー体制と継続的な人材育成を通して得た、最新のデジタルテクノロジーへのサポート能力を掛け合わせるにより、日本のお客様にDXの成果を最大化し価値をお届けしています。フォーチュン500にランクインするITサービス市場のグローバルリーダーであり、世界70カ国以上、125,000人以上の従業員が、お客様にとって重要なサービスを提供し、信頼を獲得しています。私たちはテクノロジーの力を活用して、ミッションクリティカルなITサービスを提供し、お客様のビジネスを支えています。



お客様のIT資産全体の運用を近代化し、イノベーションを推進するために必要なITサービスを提供します。

- ① 保険業界向けソフトウェア & BPS
- ② コンサルティング&エンジニアリングサービス
- ③ アプリケーション、
- ④ サイバーセキュリティ、
- ⑤ クラウド、ITアウトソーシング、

⑥ デジタルワークプレイス

① 保険業界向けソフトウェア&ビジネスプロセスサービス

生命保険、損害保険、再保険業界での自社パッケージソフトウェアの導入・運用を通じた深い経験を活用し、フロント・ミドル・バックオフィス全体の複雑なビジネスプロセスの改善と自動化、カスタマーエクスペリエンスの向上を提供いた

Stakeholders / 法人スポンサー紹介

■ DXC テクノロジージャパン株式会社

します。

② コンサルティング&エンジニアリング

グローバルのアナリティクス、AIの活用、人中心の設計、開発サービスにより、データドリブンの意思決定、運用の自動化、魅力的な製品やサービスの開発、複雑なソフトウェアエンジニアリングの課題解決を提供いたします。業務分析・計画策定からグローバル展開・グローバルリソースを活用した保守・運用まで一気通貫で提供いたします。

③ アプリケーション

アプリケーションの簡素化・最新化を行い、業務の俊敏性と成長に寄与すると共に、顧客と従業員の満足度を向上しコスト削減が可能となる、効率的な業務プロセスを設計し、アプリケーションの開発、テスト、運用を支援いたします。

④ サイバーセキュリティ

グローバルで実績のある各種セキュリティ対策実装/導入と運用（24/365）、効率化や自動化、統合管理、セキュリティリスクの評価や脅威情報からコンプライアンスまで、セキュリティに関する全ての領域でサービスを提供いたします。

⑤ クラウド、IT アウトソーシング

AWSやMicrosoftなど主要クラウドプラットフォームベンダーとの強力なパートナーシップを活かし、クラウド移行を支援します。また、グローバルの知見と日本における経験を活かし、信頼性の高い運用サービスを提供し、IT資産の最適化とコスト削減を実現します。我々のサービスはお客様のビジネス価値を最大化し、持続可能な成長を支援します。

⑥ デジタルワークプレイス

デジタルを活用したサービスデスク、Microsoft 365をはじめとするワークプレイスアプリケーション、

PCやスマートフォンなどのマルチデバイスマネジメント、ソフトウェア資産の管理を提供いたします。

■ DXC テクノロジージャパンのカルチャー

DXC テクノロジージャパンは、多様なバックボーンを持つ社員一人ひとりが、自身の能力を最大限に発揮できる「包容力のあるカルチャー」を目指しています。環境(Environment)を土台として生みだされる仕事や機会(Work)、そして仕事を通じて形成される人格や対人関係(People)。こうした3要素における、6つのカルチャーを大切に育んでいます。



■ PMI 日本支部への期待

DXC テクノロジージャパンは2024年から法人スポンサーとして加入させていただきました。日本でも事業会社含めてプロジェクトマネジメントの重要度が高まっており、弊社では新入社員研修からプロジェクトマネジメント基礎講座をし

ています。PMI 日本支部に期待するのは、実務にすぐ役立つ知識やスキルを学べる機会です。資格取得だけでなく、最新の手法や事例をわかりやすく共有してくれることで、日々のプロジェクト推進に自信を持てるようになります。また、業種や企業を超えて仲間とつながり、互いの成功体験や苦労を

Stakeholders / 法人スポンサー紹介**■ DXCテクノロジージャパン株式会社**

分かち合える場は、大きな刺激と学びになります。さらに、日本の現場特有の課題に即した実践的なアプローチを示してもらえると、理論を現場に落とし込みやすくなります。PMI 日本支部が、現場の声に寄り添いながら「一緒にプロジェクトを成功させる仲間」として伴走してくれることを、多くの企業は期待していますので、引き続きグローバル動向を含めた情報収集・配信などをお願いいたします。

【お問い合わせ】**DXCテクノロジージャパン株式会社**<https://dxc.com/jp/ja>

〒104-0031

東京都中央区京橋2-2-1 京橋エドグラン17階

株式会社 SCC



■ 高度な品質で情報社会に貢献し、お客さまと共に栄える

1975年の創業以来、株式会社エスシーシーは半世紀近く にわたり、情報サービス産業の発展と共に歩んでまいりました。

私たちは創業以来、お客さまにとって真に価値のあるものは何かを問い続け、「Quality First」を理念の一つとして掲げています。そして、その理念をただの言葉で終わらせることなく、社会の基盤となる金融や交通といったミッションクリティカルなシステムを、長年にわたり安定稼働させるという数多くの実績をもって体现し続けてきました。

また、特定の企業系列やハードウェアベンダーに属さない独立系システムインテグレーターであることも、私たちの大きな特徴です。この独立性により、常にお客さまのビジネスにとって何が最適かという視点から、特定の製品や技術に縛られることなく、公平かつ最適なソリューションを提案・構築することが可能です。社会が複雑化し、お客さまの課題が多様化する現代において、この柔軟性こそが私たちがお客さまに提供できる価値であると考えています。

■ 社会を支える三つの事業領域

当社の事業は、それぞれが専門性を持ちながらも有機的に連携する、三つの柱で構成されています。

1. システムソリューションサービス：社会の根幹を担う信頼性の高いシステム開発

私たちの事業の中核をなすのが、お客さま固有の課題解決に向けたオーダーメイドのシステム開発です。特に、クレジットカードの決済システム、鉄道の運行管理、カーナビゲーション、電子決済システムなど、万が一にも停止が許されないミッ

ションクリティカルな社会インフラ領域において、豊富な実績と深い知見を蓄積してきました。企画・提案から設計・開発、そして導入後の運用・保守に至るまで、ライフサイクル全般をワンストップで支援し、社会の安定と発展に貢献しています。長年にわたる経験で培われた高度なプロジェクトマネジメント能力と品質管理体制が、お客さまからの高い信頼につながっています。

2. ソフトウェア製品：技術を結集した多彩なソリューション

システム開発で培った高度な技術力を結集し、お客さまの多様なニーズに応えるとともに、社会の発展に貢献するソリューションを幅広く開発・販売しています。

「標的型攻撃メール訓練サービス：Trapfeel」は、業界に合わせたメールテンプレートによる訓練と専門家によるアドバイスのによって、一人ひとりのセキュリティ意識を向上し、経営リスクを低減することができます。

学習の質を高めるための「学習支援サービス：まなりび」は、AIと対話し自身で説明することによって、より深い「復習」をすることができます。未来を担う子どもたちに「実践的なプログラミング教材：プログリンク」を提供しIT人材の育成に貢献しています。

私たちは、社会課題に向き合い、日々ソリューションの創出に取り組んでいます。

3. コラボレーション事業：お客さまと共に未来を創るビジネスモデル

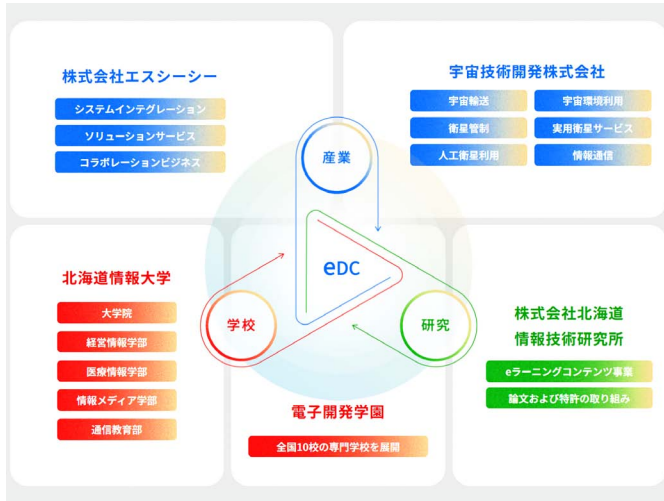
私たちは、従来の請負型の開発モデルに留まることなく、お客さまと事業パートナーとして共に歩む「コラボレーション事業」を推進しています。これは、お客さまの新規事業構想に対し、私たちが持つシステム開発のノウハウや技術力を提供し、リスクとリターンを共有しながら事業を共に創造していく「レベニューシェア方式」のビジネスモデルです。単なる開発会社としてではなく、お客さまの事業成功に深くコミットする真のパートナーとして、新たな価値創出を目指しています。

Stakeholders / 法人スポンサー紹介

■株式会社 SCC

■独自の「産・学・研」連携エコシステム

図1 eDC グループ～



最大の強みは、eDC グループが一体となって推進する「産・学・研」の連携体制です。グループ内の教育機関である北海道情報大学や電子開発学園（IT 専門学校10校）「学」との産学連携により、IT 業界の最新動向を踏まえた実践的な教育を受けた人材が、毎年安定的に入社します。これにより、IT 人材の獲得競争が激化する中でも、質の高い人材パイプラインを確立しています。

また、研究機関である北海道情報技術研究所「研」との共同研究開発を通じて、AIやセキュリティといった最先端技術をいち早く事業に取り込み、技術的な競争優位性を維持しています。そして、私たちエスシーシーが「産」として、この教育と研究の成果をお客さまへの価値提供へと繋げる役割を担っています。この独自の循環モデルこそが、私たちの成長の原動力です。

■DXによる事業構造の変革

現在、私たちは「プロジェクトマネジメント」と「事業形態」そのものの変革を目的とした中期DX戦略（2023-2025）を推進しています。

この戦略は、「プロジェクトマネジメント支援AIシステムの構築」「人財開発支援スキームの構築」「企業アライアンスによるコラボレーションビジネスの開始」という三つの重点施策から成り立っています。

専門性を持つ多様な人財の育成を加速させるため、各部門で求められるスキルと社員一人ひとりの特性を結びつけ、キャ

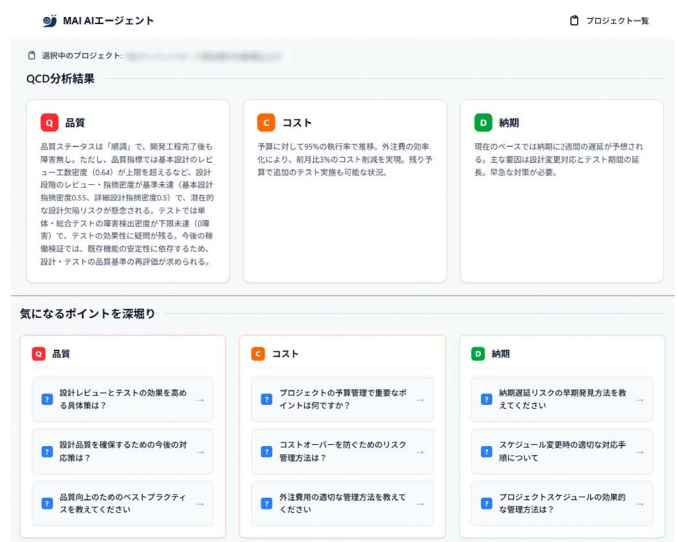
リア形成を支援する「人財開発支援スキーム」を構築しました。

また、デジタル化を目指す企業とレベニューシェア方式で提携し、新規事業を共創する「コラボレーションビジネス」を積極的に展開することで、従来の受託開発モデルからの進化を図っています。

そして、これら戦略の中核を担う最重要施策が、「プロジェクトマネジメント支援AIシステム」の開発です。これは、長年のシステム開発で社内に蓄積されたプロジェクトの知見やデータを、一元的に管理・活用するための挑戦です。

このシステムの最大の特長は、プロジェクトの計画と実績をAIが分析し、計画からの乖離を評価する点にあります。AIは進捗の遅れや品質の低下といった兆候を早期に検知し、潜在的なリスクを提示します。また現在のプロジェクト状況や今後の対応策についてAIに質問することもできます。このマネジメントサポートAIにより、経験の浅いマネージャーであっても、熟練者の知見に基づいた適切な初動対応が可能となり、プロジェクト品質の平準化と向上を実現します。

図2 マネジメントサポートAI



さらに、このシステムはPMO（プロジェクト・マネジメント・オフィス）の業務も変革します。リスク確率が一定のしきい値を超えたプロジェクトのみを自動で抽出し、PMOにアラートを発信。これにより、PMOは全プロジェクトを常時監視する膨大な工数から解放され、本当に支援が必要な高リスク案件への早期介入と対策支援に集中できるようになります。

Stakeholders / 法人スポンサー紹介

■株式会社 SCC

図3 リスク確率の算出



このシステムは、社内での運用と機能改善を重ねており、2025年度中の販売開始を予定しています。自社の生産性向上に留まらず、このソリューションを広く提供することで、日本のIT業界全体のプロジェクト成功率向上に貢献することを目指しています。

私たちエスシーシーは、これからも社会インフラを支える確かな技術力と、AIをはじめとする先進技術を活用したプロジェクトマネジメントの革新を両輪に、お客さま、そして社会と共に未来を共創してまいります。

【お問い合わせ】

株式会社エスシーシー

〒164-8505 東京都中野区中野5-62-1 (eDCビル)
電話：03-3319-6611

ウェブサイト：<https://www.scc-kk.co.jp/>

お問い合わせ：<https://www.scc-kk.co.jp/inquiry/>

Activities / 支部活動

PMI 日本フォーラム 2025 結果報告



日 程 2025年7月12日(土)～8月31日(日)

テ ー マ プロジェクトトランスフォーメーション
～次世代プロジェクトマネジメントの探求～

講演形態 【基調・招待講演】 7月12日(土)、13日(日)

- 会場での開催 : 7月12日(土)
- リアルタイム配信: 7月12日(土)、13日(日)
- オンデマンド配信: 7月14日(月)～
8月31日(日)

【部会・スポンサー・アカデミック講演】

- オンデマンド配信:
2025年7月14日(土)～8月31日(日)

講演数 全75セッション

- 基調・招待講演……………12
- 研究報告講演: 部会……………44
- : 法人スポンサーSG……………2
- : スポンサー企業様……………6
- アカデミック講演……………7

PMIは変化に対応するためにプロジェクトマネジメントが重要であると言いつけてきました。コロナ以前から続く様々な社会課題が深刻化しているのに加え、トランプ政権の発足で先行き不透明の度合いが高まっています。久しぶりのインフレと賃上げ、金利上昇で、大半の現役世代にとっては未経験の経済状況に突入しました。AIの効用も身近に迫りつつあり、不確実性と不安定性が高まる中で、我々は様々なプロジェクトを遂行していかなければなりません。

高齢の政治家や経営者は分かっているはずですが、この40年間でインフレ対策のノウハウが政府からも産業界からも失われています。過去から学ぶべきことはたくさんありますが、過去に回帰することはできず、未来に向かって創造性を発揮して、自分が直面する問題を解く方策を自ら編み出すしかありません。正解のない時代が現役世代に覚醒を求めています。

このような視座からご登壇いただいた講演者の皆様、フォーラム開催にご協力いただいたスポンサー及び会員ボランティアの皆様に深く感謝申し上げます。

◆基調・招待講演

まず、PMI本部の理事会議長であるIke Nwankwo氏が

Activities / 支部活動

■ PMI 日本フォーラム2025 結果報告

ら「Transforming Project Management with Generative AI: Unlocking Productivity and Leadership」と題し、基調講演がありました。その後、11人の国内識者から、アートを主題とした「インクルーシブデザイン」、「予定調和にとらわれない活動の重要性」の講演、「地方発ベンチャー企業の成長」の紹介、大手企業のIT関連部門からは、「IT関連の仕事に必要な『型』と「IT部門変革の道のり」、仕事に対する向き合い方を説く「ウェルビーイング」、「ネガティブ・ケイパビリティの有用性」の紹介、海外から見える日本を解説いただいた「インドと日本の働き方文化の違いとその融合」、「マレーシアから見る望ましいグローバル教育」、AIを活用した海外プロジェクト事例として「米国インド移民のためのAIと人間のハイブリッドメンタルヘルスケア」、経産省が進める「ITCプロセスガイドラインの解説」など、多岐にわたる講演をいただきました。

なお、2025年は、英語セッションにあたり、聴講者ご自身のスマホに翻訳結果が随時表示され、イヤホンを通して翻訳音声も同時に聴ける「ポケットーク」を導入し、極めて好評いただきました。



◆ スポンサー展示ブース

オンラインによる展示は昨年に続き5社からいただきました

たが、2025年は6年ぶりに、基調・招待講演会場のホワイエにて4社のスポンサー様による展示ブースを設け来場者に自社事業をアピールしていただきました。



◆ アカデミック講演

今年のアカデミックトラックでは、デジタル化社会に対応したプロジェクトマネジメント教育が主要なテーマとなりました。特に、生成AIを活用した自律学習支援や、RAG (Retrieval-Augmented Generation) 型AIティーチングアシスタントの実装可能性が示され、教育の個別最適化に向けた新たなパラダイムが提示されました。

また、地方創生や社会課題の解決を目指した産学連携の取り組みも活発に議論されました。学生が地域企業や自治体と連携し、ICTを活用して課題解決に取り組む教育プログラムや、起業家精神を育む高専の人材育成プロジェクトなど、実践的な教育事例が多数紹介されました。

これらの講演は、今後のPM教育が、AI技術を積極的に取り入れつつ、社会との連携をさらに強化していく方向性を示しています。

◆ 研究報告講演

研究報告講演では、プロジェクトマネジメントの最新動向と実践知が多角的に紹介されました。テーマは、AI・デジタル技術の活用、人的資本の育成、SDGs達成に向けた取り組み、医療・行政・教育分野でのPM導入事例など、社会課題と技術革新の接点に焦点を当てられました。アジャイル型開発やPMOの運営、ビジネスアナリシスの応用など、組織変革を支える手法の深化に加え、EQ (感情知能) や人間力、偶然性といった非定型要素のマネジメントも注目されていました。また、若手育成や多様性の尊重、地域連携といったテーマも含まれ、単なる手法論にとどまらず、プロジェクトを通じた

Activities / 支部活動

■ PMI 日本フォーラム2025 結果報告

人と組織の成長、社会的価値の創出を目指す姿勢が見られました。

◆ スポンサー講演

協賛企業様からは6編の講演がありました。まず、現代のプロジェクトマネジメントにおける多様な課題と革新への取り組みとして、ハイブリッド型アプローチの誤用による失敗事例と、適切なテラリングの重要性が強調され、理論と実践のギャップに警鐘が鳴らされました。次に、プロジェクト人材の多様性を「選手名鑑」形式で可視化し、組織に必要な人材像を明確化するタレントマネジメントの提案がありました。さらに、DX推進における関係者間の協働の重要性と、ビジネスアナリシスのアプローチによる目線の統一が紹介され、実践的な改善事例が共有されました。週休3日制でも成果を維持するチーム運営の工夫や、心理的安全性とウェルビーイングの両立が注目されました。最後に、R&Dと営業の連携によるGEMBA視点のソリューション創出や、PMOのプロセス改善と教育コンテンツ開発の事例が紹介され、組織横断的な取り組みの成果と課題が明らかにされました。

全体を通じて、理論と実践の融合、人材育成、働き方改革、組織間連携が今後のPMの鍵であることが浮き彫りとなりました。

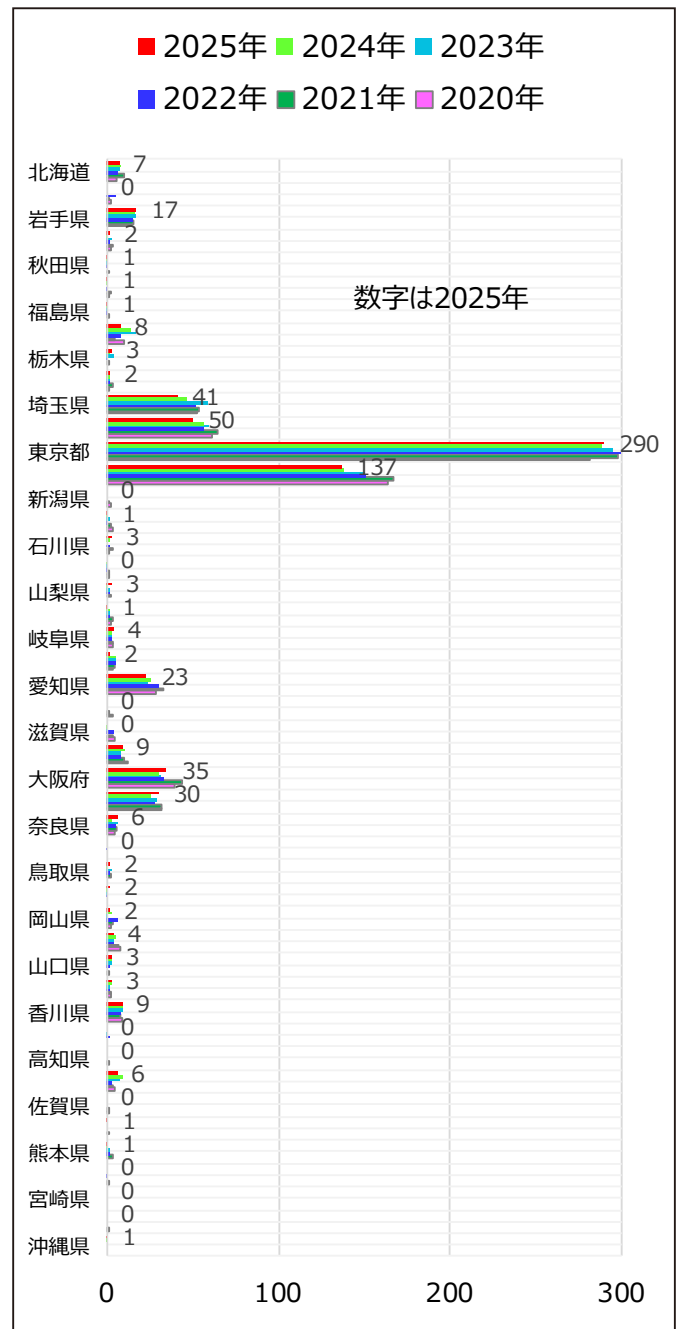
◆ 受講規模

全講演のオンデマンド聴講期間を昨年同様に8月31日まで設けた結果、最終的には910名を超える方々から受講申し込みをいただきました。

- ・日本支部会員 451名
- ・アクティブメンバー 182名
- ・法人スポンサー企業社員 77名
- ・一般の方 104名
- その他 理事・監事、ご招待者など

県別に見た受講地域は例年と同じ傾向でした。関東圏が圧倒的に多いものの、北海道から九州に至るまで多くの地域からの聴講いただきました。また、海外からは米国、インド、インドネシアの3ヶ国から聴講がありました。

図1 受講地別人数



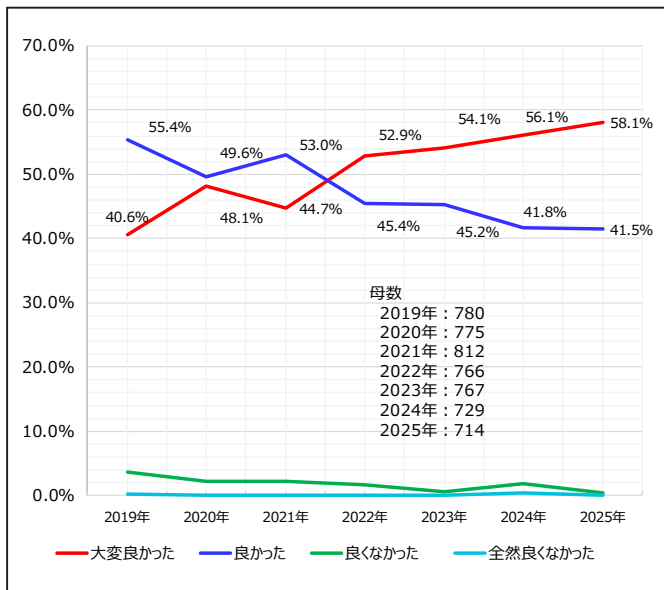
Activities / 支部活動

■PMI日本フォーラム2025 結果報告

◆アンケート（受講完了報告）結果

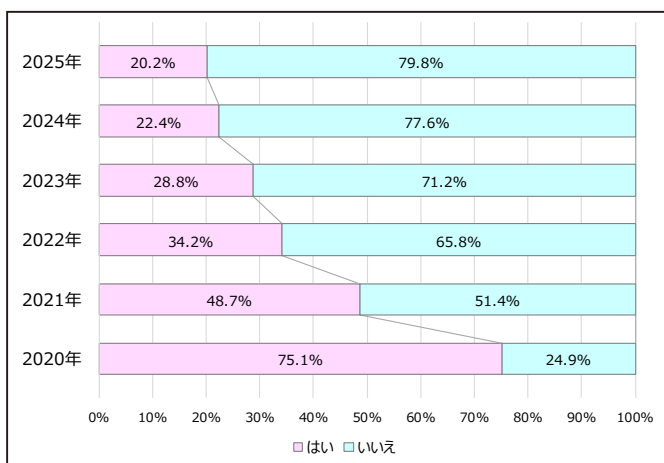
総合的には「大変良かった」58.1%、「良かった」41.5%で計99.6%となり、極めて高い評価をいただきました。特に「大変良かった」は2021年以降漸増傾向にあります。

図2 総合評価



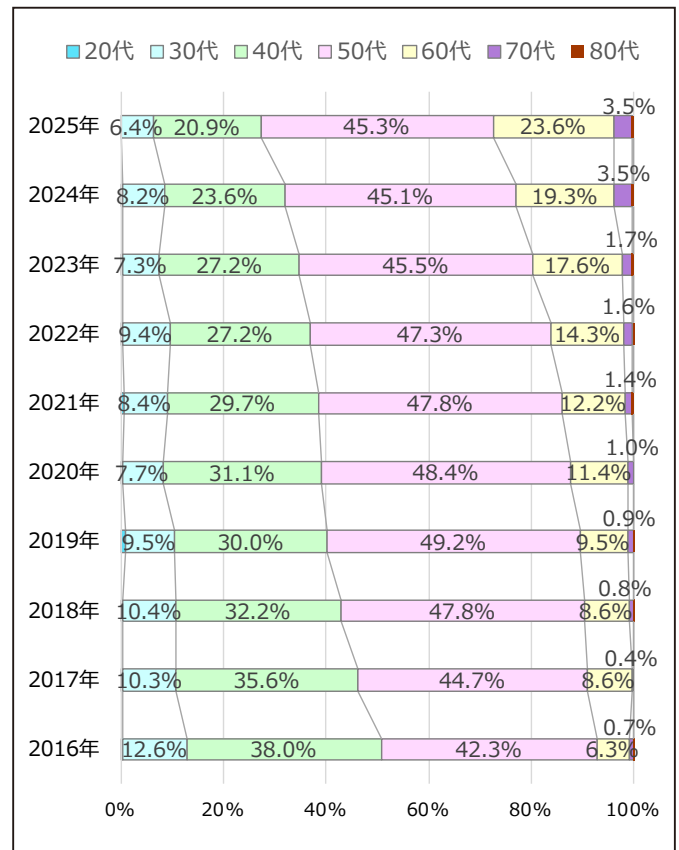
また、2020年から始めたオンデマンド配信は聴講いただく方が毎年増加しています。そのため、リアルタイム配信を聴講する方は漸減傾向にあり、2025年は全体のちょうど2割となっています。

図3 リアルタイム配信聴講の有無



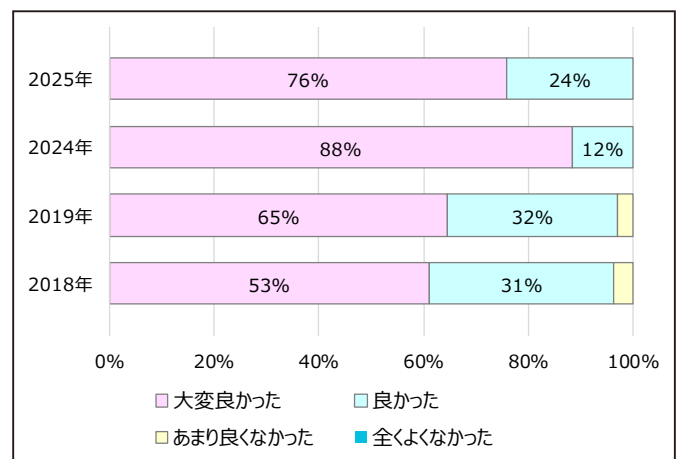
参加者の年齢構成からは、参加者層の高年齢化がますます進んでいることが伺えます。

図4 参加者の年齢層



2024年に5年ぶりに開催した会場での交流会は大好評をいただきました。2025年は昨年を上回る150余名の方々に参加いただきました。

図5 交流会に参加して



Activities / 支部活動

■ PMI 日本フォーラム2025 結果報告



◆ 終わりに

2024年11月の「Festa 2024」に続き、2025年の「日本フォーラム2025」はJR秋葉原駅至近の「アキバプラザ」にて開催しました。「フォーラムの講演会場としてふさわしい」とのコメントもいただき、イベント全体としての高評価に、理事・事務局として大変喜んでおります。

一方で、交流会には多くの方々に参加いただけたものの、

初参加の方には少々溶け込みにくい点があったり、展示スポンサーブースの周辺に手狭感があったりと、いくつかの反省もあります。

2026年も今回の反省点のほか皆さまからいただいたご意見等も参考にしながら、より魅力的なイベントにすべく検討を進めて行きますので、今後どうぞよろしくお願いいたします。

リーダーシップミーティング2025 実施報告

PMコミュニティ活性化委員会 杉原 秀保

PMコミュニティ活性化委員会では、日本支部会員のコミュニティを活性化する交流の場や情報を提供し、アクティブ・メンバーの増強や日本支部の価値向上を目的に活動していますが、中でもリーダーシップミーティング（LM2025）は、日本支部の研究会などのリーダーが全国から一堂に会し、日本支部の抱える課題や未来のありかたを考えると共に、リーダーシップを鍛える重要イベントに位置付けられています。

11回目の開催となる今年は2025年9月6～7日に合宿形式で、東京晴海にて開催されました。

リーダーシップミーティングの主な参加対象は、PMI日本支部の部会代表者や理事・監事・アドバイザーなど今後リーダーシップの発揮が期待されるアクティブ・メンバーが中心ですが、全体参加者90名の内、約3割が初参加というフレッシュな顔ぶれで新たな価値創造のきっかけになったと感じています。また、今年はPMI本部側からも10名が参加し、海外のゲストスピーカーによるプロジェクトマネジメントの最新動向のレクチャーもありました。海外ゲストは英語講演でしたが、Pocketalkのサービスを利用したことで、音声、文字情報による同時通訳が可能となり、講演後の質疑応答や意見交換なども例年以上に多く、充実したコミュニケーションを図ることができました。

◆初日

9月6日(土)は、遠方からの参加者にも配慮し、午後からの開催としました。

冒頭で日本支部 端山会長からオープニング挨拶があり、続いてPMI本部のゲストから以下の4つのテーマで講演があり、活発なQ & Aが繰り広げられました。

- 「PMIの共有とAPAC計画」 SoHyun Kang氏（PMI APAC 地域マネージングディレクター）
- 「PMI AI共有」 Kathleen Walch氏（PMI AI & エンゲージ&コミュニティディレクター）
- 「PMIサステナビリティ共有」 Lucilla Dotto氏（PMI GPM JV リード、サステナビリティ担当）
- 「日本コミュニティ&マーケティング最新情報」

Yolanda Kim氏（PMI 北米支部エンゲージメントスペシャリスト）

続いて日本支部からも日本の特徴を捉えた以下のテーマでの講演があり、興味・関心を持った海外ゲストからは活発な質問が寄せられました。

- 「PMI日本支部の紹介」 端山会長
- 「PMI日本支部の次期中期計画」 森田副会長、ミッション委員会
- 「PMI日本支部のSDGsの取り組み」 稲葉理事
- 「次世代リーダーシップ・ミーティング」 池之上リーダー、PMコミュニティ活性化委員会
- 「若手PMにPMI標準をプロモートするツールとしてのマンガ」 金子理事、標準推進委員会

講演終了後、参加者全員で記念撮影をして初日のセッションは終了。宿泊する部屋へのチェックインを終えてからの交流会ディナーでは、じゃんけん大会など豪華景品が当たるレクレーションもあり、皆さんが和やかな雰囲気のもとで対話やゲームを楽しんでいただけた様子でした。さらに飲み足りない方のために二次会もご用意していましたが、半数以上の方が参加され、夜遅くまで皆さんが積極的に交流されている姿が印象的でした。

◆二日目

2日目はPMコミュニティ活性化委員会の石井氏と慶応大学大学院SDMの当麻哲哉教授に講師を務めていただきワークショップを開催。1チーム9名ずつ、8チームに分かれて今回のイベントコンセプトである～PMI日本支部としての「価値創出」を考えよう～を元に、以下の4テーマで議論・検討しました。

- (1) PMIの価値を世の中にどう広げていくか
- (2) 日本支部としての持続可能性（サステナビリティ）のためにできることを考えよう
- (3) 日本支部の活動の中でスチュワードシップを果たすた

Activities / 支部活動

■リーダーシップミーティング2025 実施報告

めにできることは何かを考えよう

(4) 研究会やコミュニティを進化させるためのアイデアを考えよう

検討したアイデアや施策内容については、エレベーターピッチやスキット（寸劇）、ロードマップ作成などを経て具体的な施策に落とし込まれたものを最終的に発表いただきましたが、日本支部の明るい未来を予感させるユニークなアイデアも飛び出し、会場内は大いに盛り上がりました。

◆後記

あっという間の二日間で、名残惜しさを感じつつも、また来年のリーダーシップミーティング2026で再開し、各自が所属する研究会などで1年間取り組んだ挑戦や実績を報告し合うことを約束し閉会しました。

最後になりますが、このイベントを成功させるために海外から駆けつけ貴重な知見をレクチャーいただいたPMI本部/APのみなさま、企画・運営に多大な時間を割き準備・調整にご尽力いただいたPMコミュニティ活性化委員会や日本支

部事務局のみなさま、また、全国から参加いただいたアクティブ・メンバーの方々に心から御礼申し上げます。

二日間のリーダーシップミーティングを振り返って感じることは、日本支部の強みは、幅広い業界から多様な専門スキル、キャリア・価値観を持ったプロフェッショナルが集うコミュニティにあり、影響力のある外部メンバーとの人脈・ネットワークワーキングを有しているという点です。

私達PMコミュニティ活性化委員会のミッションは、PMI活動に参加されている方向けに、出会いと学びの機会を提供し、居心地の良い場を提供し続けることにあります。今回のリーダーシップミーティング以外にも、次世代LM20XX（若手向けリーダーシップミーティング）、部会リーダー交流会や新入会オリエンテーション、部会紹介セミナーなど、年間通じて部会コミュニティを活性化する施策を企画・開催し、活動しています。

今後さらに、部会活動の魅力や価値を発信し、アクティブメンバーの増大を図れるよう取り組んでまいりますので、人を繋ぐイベント企画や運営に興味をお持ちの方々のご参加をPMコミュニティ活性化委員メンバー一同でお待ちしています。

表1 LM2025のプログラム内容（初日）

PMI日本支部 リーダーシップ・ミーティング LM2025（9月6日）

Rv2

時間	内容	講演者	MC
13:00-13:20	諸注意、開会宣言、端山会長挨拶、ゲスト紹介	端山会長、Yolandaさん	坂上
13:20-14:05	PMI sharing & APAC Plan	SoHyun Kang, Regional Managing Dir, APAC, PMI	
14:05-14:20	PMI AI Sharing	Kathleen Walch, Dir, AI & Engage & Community, PMI	
14:20-14:50	PMI Sustainability Sharing	Lucilla Dotto, Head, Sustainability, PMI GPM JV Lead	
14:50-15:00	Japan Community & Marketing Update	Yolanda Kim, Chapter Engagement Specialist, NA, PMI	
15:00-15:30	Q&A	通訳：Yolanda Kim	
15:30-15:45	（休憩）		
15:45-16:05	PMI日本支部の紹介	端山会長, PMI日本支部	坂上
16:05-16:15	PMI日本支部の次期中期計画	森田副会長, ミッション委員会委員長, PMI日本支部	
16:15-16:45	PMI日本支部のSDGsの取り組み	稲葉理事, PMI日本支部	
16:45-17:00	次世代リーダーシップ・ミーティング	池之上リーダー, PMコミュニティ活性化委員会, PMI日本支部	
17:00-17:15	若手PMにPMI標準をプロモートするツールとしてのマンガ	金子理事, 標準推進委員会委員長, PMI日本支部	
17:15-17:30	Q&A	通訳：Yolanda Kim	
17:30-18:00	クロージング、記念撮影、鍵の配布（宿泊者）		坂上
18:00-18:30	チェックイン（宿泊者）、交流会会場へ移動		
18:30-20:30	交流会ディナー	別館アネックス（Daiwa晴海ビル）4階 BERTH 1+2	ジョン・三宅
21:30-23:00	二次会（希望者のみ）	本館3階 談話室 Portside1	

Activities / 支部活動

■リーダーシップミーティング2025 実施報告

表2 LM2025のプログラム内容（2日目）

PMI日本支部 リーダーシップ・ミーティング LM2025（9月7日）

時間	内容	備考	MC
8:40-9:00	受付・宿泊カード返却、（朝食 7:00-8:30 @1階 Phare、部屋退去）		
9:00-9:10	諸注意、2日目の開会宣言、連絡事項		石井
9:10-9:30	ワークショップのテーマ説明と流れ（同じ討議テーマを2グループに割当て、全8グループ） 共通コンセプト：PMI日本支部としての「価値創出」を考えよう (1) PMIの価値をどう世の中に広げていくか (2) PMI日本支部としての持続可能性（サステナビリティ）のためにできることを考えよう (3) PMI日本支部の活動の中でスチュワードシップを果たすためにできることは何か考えよう (4) 研究会・コミュニティを進化させるためのアイデアを考えよう	石井 真 PMコミュニティ活性化 委員会	石井
9:30-10:25	ワークショップ1/3 自己紹介、アイスブレイク、ブレインストーミング	石井 真	石井
10:25-10:35	（休憩）		
10:35-11:55	ワークショップ 2/3 アイデア検討、エレベーターピッチによる発表	当麻哲哉教授 慶応大学大学院SDM	当麻
11:55-12:00	（移動）		
12:00-13:00	（昼食）	1階 レストランPhare	
13:00-14:00	ワークショップ 3/3 ロードマップ作成、発表準備	当麻哲哉教授	当麻
14:00-14:10	（休憩）		
14:10-15:45	グループ発表（8グループ）		石井・当麻
15:45-16:00	講評（端山会長）、閉会宣言（杉原理事）、連絡事項		石井
16:00	（解散）		

© 2025 PMI Japan Chapter | PMI-Japan.ORG 16



リーダーシップミーティング初日の講演風景

リーダーシップミーティングの
海外ゲストスピーカー（SoHyun Kang氏）による講演

リーダーシップミーティング2025参加者の集合写真（LMなのでLポーズ）

PM Calendar / PM カレンダー

PMI 日本支部のイベントならびに PM 教育関連セミナーなどの案内です。

詳しくは、PMI 日本支部の Web サイトをご参照ください。

【ホームページにて公開中・準備中】

■ PMI 日本支部関連セミナー／ワークショップ

●【日本支部会員になっていない方限定】

支部紹介オリエンテーション

- 日時：9月29日(月) 18:30～20:30
- 形式：リモート開催
- 無料、2PDU

●関西ランチ創立 15 周年記念

PM わくわくフェス

- 日時：10月4日(土) 10:00～16:50
- 形式：会場（大阪市中央区）開催
- 4.0PDU

●ポートフォリオマネジメント実践ワークショップ

- 日時：11月7日(金) 9:30～18:00
- 形式：リモート開催
- 7PDU

●PM コンピテンシー開発フレームワーク 第3版

紹介セミナー

- 日時：9月30日(火) 19:00～20:00
- 形式：リモート開催
- 無料、PDU なし

●地域セミナー ～中国@広島 WG からの発信～

- 日時：11月1日(土) 13:30～17:45
- 形式：会場開催のみ
- 無料、3.75PDU

■ PMI 日本支部関連イベント

●PMI Japan Festa 2025

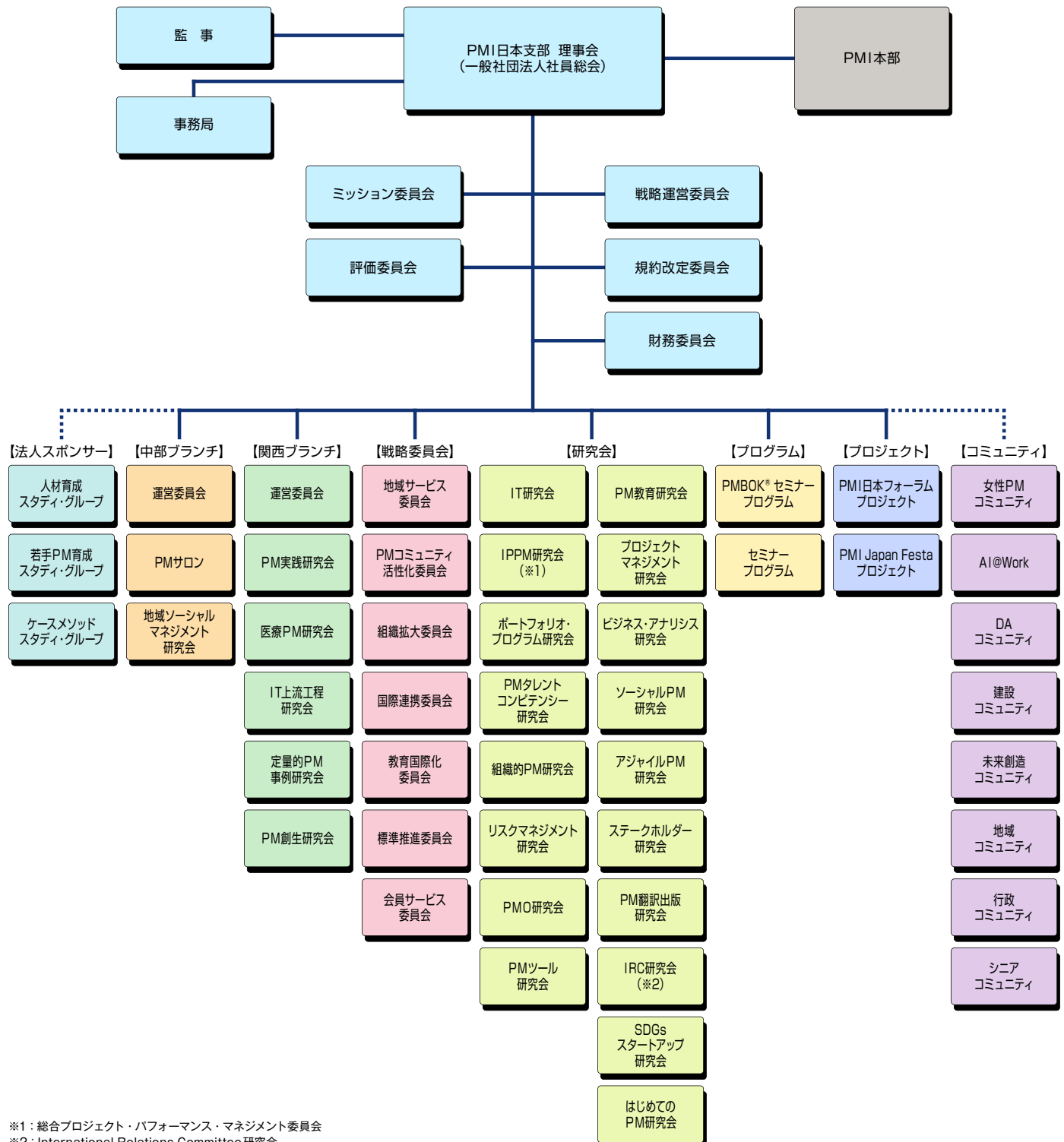
- 会場（東京都千代田区）開催：11月22日(土)
- リアルタイム配信：11月22日(土)・23日(日)
- オンデマンド配信：11月25日(火)～12月21日まで

*なお、イベント、セミナー、コースなどは、諸般の事情により変更または中止される場合があります。
PMI 日本支部ホームページで確認をお願いいたします。(https://www.pmi-japan.org/event/)

Fact Database / データベース

PMI日本支部やPMP®資格取得者に関する最新情報をお届けします。

■ 支部活動 (2025年9月現在)



Fact Database / データベース

■ 理事一覧 (2025年9月現在)

会 長	端 山 毅	株式会社 NTT データグループ
副会長	麻 生 重 樹	日本電気株式会社
副会長	奥 澤 薫	KOLABO
副会長	中 村 亜 子	株式会社パーソル総合研究所
副会長	藤 井 新 吾	モバイルコンピューティング推進コンソーシアム
副会長	森 田 公 至	DXC テクノロジー・ジャパン株式会社

(以下、五十音順)

理 事	稲 葉 涼 太	TIS 株式会社
理 事	井 上 雅 裕	大正大学／芝浦工業大学
理 事	浦田有佳里	国立研究開発法人情報通信研究機構サイバーセキュリティ研究所
理 事	小川原陽子	日本アイ・ビー・エム株式会社
理 事	奥 田 智 洋	株式会社アイ・ティ・イノベーション
理 事	鬼 束 孝 則	Ridgelinez 株式会社
理 事	金子啓一郎	プロジェクト・ピープル・パフォーマンス研究所
理 事	斉 藤 学	スカイライト コンサルティング株式会社
理 事	坂 上 慶 子	株式会社 日立アカデミー
理 事	杉 原 秀 保	ニッセイ情報テクノロジー株式会社
理 事	アンリ近藤	東京エレクトロン株式会社／ビズフォリオ合同会社
理 事	羽佐間一潮	日本プロジェクトマネジメント協会 (PMAJ)
理 事	藤 原 慎	株式会社NTT データ先端技術
理 事	松 本 弘 明	株式会社ローソン銀行
理 事	水 井 悦 子	エンパワー・コンサルティング株式会社
理 事	山 本 智 子	川崎医療福祉大学
理 事	除 村 健 俊	サイバー大学／芝浦工業大学

■ 最新の会員・資格者情報 (2025年8月31日現在)

会員数 (人)	
PMI 本部	日本支部
753,212	7,150

PMP® 資格保有者数 (人)	
世界全体	日本在住
1,639,281	51,489

なお、日本や各国の PMI 認定資格者数は PMI 本部 Web サイトの Certification Registry でご覧いただけます。

<https://www.pmi.org/certifications/certification-resources/registry>

■ 行政スポンサー (2025年9月現在)

- 三重県 桑名市
- 滋賀県 大津市
- 広島県 福山市
- 広島県総務局 県庁情報システム担当

■ 法人スポンサー 一覧 (120社、順不同、2025年9月現在)

- TIS 株式会社
- 日本アイ・ビー・エム株式会社
- 株式会社NSD
- 株式会社インテック
- キヤノン I T ソリューションズ株式会社
- 日本電気株式会社
- アイアンドエルソフトウェア株式会社
- 株式会社NTT データグループ
- プラネット株式会社
- 株式会社クレスコ
- ラーニング・ツリー・インターナショナル株式会社
- 日本ヒューレット・パッカード合同会社
- 株式会社大塚商会
- 日本プロセス株式会社
- BIPROGY 株式会社
- JBCC 株式会社
- 株式会社パーソル総合研究所
- 日本アイ・ビー・エムデジタルサービス株式会社
- 株式会社アイテック
- 株式会社エヌ・ティ・ティ・データ・フロンティア
- 株式会社日立アカデミー
- 情報技術開発株式会社
- アイシンク株式会社
- 三菱総研 DCS 株式会社
- ソニーセミコンダクタソリューションズ株式会社
- 三菱電機ソフトウェア株式会社
- 株式会社三菱総合研究所
- 株式会社 N T T データ アイ
- 日鉄ソリューションズ株式会社
- 株式会社日立ソリューションズ
- 日本自動化開発株式会社
- 日揮グローバル株式会社
- 株式会社野村総合研究所
- 株式会社アイ・ティ・イノベーション
- 株式会社 JSOL
- ニッセイ情報テクノロジー株式会社
- 株式会社リコー
- 株式会社 SI & C
- 住友電工情報システム株式会社
- 株式会社エヌ・ティ・ティ・データ・ユニバーシティ
- 株式会社マネジメントソリューションズ
- 株式会社日立製作所
- 株式会社システムインテグレータ
- 日本ビジネスシステムズ株式会社
- コベルコシステム株式会社
- 日本電子計算株式会社
- 株式会社日立システムズ
- 株式会社神戸製鋼所
- クオリカ株式会社
- 株式会社エクサ
- 株式会社ラック
- 三菱電機株式会社
- 日本情報通信株式会社
- 株式会社日立社会情報サービス
- 株式会社 TRADECREATE
- 株式会社日本ウィルテックソリューション
- システムスクエア株式会社
- 株式会社アイ・ラーニング
- 株式会社トヨタシステムズ
- 東芝インフォメーションシステムズ株式会社
- 株式会社ワコム
- NCS&A 株式会社
- ロジスティードソリューションズ株式会社
- SCSK 株式会社
- 株式会社東レシステムセンター
- ビジネステクノクラフツ株式会社
- SOMPO システムズ株式会社
- 株式会社エル・ティー・エス
- 株式会社日立産業制御ソリューションズ
- MS&AD システムズ株式会社
- リコージャパン株式会社
- SB テクノロジー株式会社
- 株式会社インテージテクノスフィア
- 伊藤忠テクノソリューションズ株式会社
- 株式会社オーシャン・コンサルティング
- 株式会社リクルート

Fact Database / データベース

- JFE システムズ株式会社
- アドソル日進株式会社
- キヤノン株式会社
- ビジネスエンジニアリング株式会社
- 大日本印刷株式会社
- サイフォーマ株式会社
- 株式会社NTTデータ・ニューソン
- キーウェアソリューションズ株式会社
- NEC ソリューションイノベータ株式会社
- 株式会社パスコ
- アベールソリューションズ株式会社
- エス・エー・エス株式会社
- 明治安田システム・テクノロジー株式会社
- テルモ株式会社
- TOPPAN エッジ株式会社
- ペルノックス株式会社
- キンドリルジャパン株式会社
- 株式会社ヒューマンテクノシステム
- 株式会社IT プレナーズジャパン・アジアパシフィック
- 富士電機株式会社
- KDDI 株式会社
- フラッグス株式会社
- 株式会社JQ
- 株式会社PE-BANK
- 三菱電機エンジニアリング株式会社
- Smartsheet Japan 株式会社
- アイエックス・ナレッジ株式会社
- AKKODiS コンサルティング株式会社
- 株式会社エヌ・ティ・ティ・データ CCS
- キンドリルジャパン・テクノロジーサービス株式会社
- ネットワンシステムズ株式会社
- PM アソシエイツ株式会社
- Asana Japan 株式会社
- プラニスウェア・ジャパン株式会社
- 株式会社ピーエスシー
- 株式会社ワールドフェイマス
- DXC テクノロジージャパン株式会社
- 株式会社SCC
- テクノシステム株式会社
- INTLOOP 株式会社
- 株式会社MSOL Digital
- 株式会社エイジレス
- 富士フイルムビジネスイノベーションジャパン株式会社
- ファインディ株式会社

■ アカデミック・スポンサー 一覧 (55 教育機関、順不同、2025 年 9 月現在)

- 産業技術大学院大学
- 慶應義塾大学 大学院システムデザイン・マネジメント研究科
- サイバー大学
- 芝浦工業大学
- 金沢工業大学
- 九州大学大学院 芸術工学府デザインストラテジー専攻
- 広島修道大学 経済科学部
- 北海道大学大学院 情報科学研究科
- 山口大学大学院 技術経営研究科
- 筑波大学大学院 システム情報工学研究科 コンピュータサイエンス専攻
- 早稲田大学ビジネススクール
- 早稲田大学 理工学術院 基幹理工学部 情報理工学科
- 公立大学法人 広島市立大学 大学院情報科学研究科
- 国立高等専門学校機構 仙台高等専門学校
- 大阪大学大学院 工学研究科 ビジネスエンジニアリング専攻
- 愛媛大学工学部および大学院理工学研究科工学系
- 国立高等専門学校機構 八戸工業高等専門学校
- 京都光華女子大学
- 鹿児島大学 産学・地域共創センター
- 千葉工業大学 社会システム科学部 プロジェクトマネジメント学科
- 京都工芸繊維大学 ものづくり教育研究センター
- 北海道情報大学
- 山口大学 工学部知能情報工学科
- 川崎医療福祉大学 医療福祉マネジメント学部 医療秘書学科 および大学院医療秘書学専攻
- 青山学院大学 国際マネジメント研究科
- 公立大学法人 公立はこだて未来大学
- 慶應義塾大学 理工学部 管理工学科 飯島研究室
- 就実大学 経営学部 経営学科
- 神戸女子大学 家政学部家政学科
- 明石工業高等専門学校 建築学科大塚研究室
- サレジオ工業高等専門学校 一般教育科 物理教育学研究室
- 北陸先端科学技術大学院大学 先端科学技術研究科 敷田研究室
- 中京大学 情報センター
- 法政大学専門職大学院 イノベーション・マネジメント研究科
- 札幌学院大学
- 国立研究開発法人 理化学研究所 生命機能科学研究センター

Fact Database / データベース

- 岡山大学 教育研究プログラム戦略本部 戦略的プログラム支援ユニット（URA）
- 香川大学大学院 地域マネジメント研究科 中村研究室
- 明治大学 経営学部 鈴木研一研究室
- 中京大学 経営学部 齊藤毅研究室
- 独立行政法人 国立高等専門学校機構 舞鶴工業高等専門学校
- 愛媛大学 教育・学生支援機構学生支援センター 丸山智子研究室
- 東京都市大学 都市生活学部 国際開発プロジェクト研究室
- 東京工科大学 コンピュータサイエンス学部 サービスシステムデザイン研究室
- 江戸川大学 メディアコミュニケーション学部情報文化学科
- 地方独立行政法人 神戸市民病院機構 神戸市立神戸アイセンター病院 研究センター
- 中央大学 国際情報学部
- 福岡工業大学 情報工学部システムマネジメント学科
- 学校法人 角川ドワンゴ学園 経験学習部
- 第一工科大学 東京上野キャンパス
- 公立大学法人大阪 国際基幹教育機構 高度人材育成推進センター
- 東京理科大学 経営学部 国際デザイン経営学科 森本研究室
- 名古屋工業大学 社会工学科 経営システム分野 瀧口研究室
- 日本経済大学 大学院経営学研究科
- 大正大学